

令和三年度入学試験問題（前期日程）

国語

（中等教育教員養成課程 国語専攻）

注意事項

- 1 解答はすべて別紙解答紙の指定の箇所に記入すること。
- 2 解答紙には、必ず受験番号を記入すること。

令和3年度前期日程入学試験問題

補足説明

◎科目名 国語

- 1 ページ [一] 問二の解答については、
①・②とあるが、順不同でかまわない。

解答するにあたっては、次のことに注意せよ。

- ア 送り仮名・仮名遣い・文字・記号の表記については、標準的慣用表記によること。
イ 句読点は一字に数える。
ウ 楷書で書くこと。

〔一〕 次のそれぞれの問題に答えよ。

問一 傍線部のカタカナの部分は漢字で、漢字の部分は読みをひらがなで記せ。

- ① 堺のゴウシヨウの屋敷跡。 ② 栄枯セイスイ。
③ 時代のヘンセン。
④ 彼とはウンデイの差がある。
⑤ 音楽にゾウケイが深い。 ⑥ ツタナイ作品だ。
⑦ カクウの世界の物語。 ⑧ 故人をイタむ。
⑨ 草履を作ってみた。 ⑩ 遮二無二に突き進んだ結果だ。

問二 次の熟語の中から上下の組み合わせが主語と述語の関係にあるものを二つ選び、記号で答えよ。

- ア 漆器 イ 防止 ウ 雷鳴 エ 羨望 オ 重複 カ 県立 キ 既成

問三 次の故事成語の（ ）に当てはまる語句として適当なものを選択肢から一つずつ選び、記号で答えよ。

- ① （ ）おくべし ② 危うきこと（ ）のごとし ③ （ ）の君子
- ア 千金 イ 梁上 ウ 累卵 エ 管鮑 オ 虎穴 カ 苛政 キ 蟻螂 ク 奇貨

問四 次の傍線部の意味として、最も適切なものを選択肢から一つずつ選び、記号で答えよ。

- ① 彼が言ったことに失笑した。
- ② 君と仕事をするのはやぶさかではない。
- ③ 太郎は「はっ」と気づいてきびすを返した。
- ④ 社長の肝いりで三者の対談が行われた。
- ⑤ 彼は私に三拜九拝した。

ア あざけること イ 努力を惜しまない ウ 頼み込むこと エ 後戻りをすること オ 仕方がないこと
カ 驚くこと キ 世話を焼くこと ク 渴望すること ケ 我慢できず吹き出すこと コ 回顧すること

問五 和歌「唐衣着つつなれにしつましあればはるばる来ぬる旅をしぞ思ふ」に関して、以下の問いに答えよ。

- ① 傍線部アの助動詞の意味と異なる意味の助動詞を次の選択肢から一つ選び、記号で答えよ。

ア 山川に風のかけたるしがらみは流れもあへぬ紅葉なりけり

イ あはれともいふべき人は思ほえて身のいたづらになりぬべきかな

ウ 淡路島通ふ千鳥の鳴く声に幾夜寝ざめぬ須磨の関守

エ 山里は冬ぞ寂しさまさりける人めも草もかれぬと思へば

- ② 傍線部イ「つましあれば」を品詞分解し、解説したものとして最も適当なものを次の選択肢から一つ選び、記号で答えよ。

ア 「つまし／あれ／ば」となり、「つまし」は形容詞の終止形で、「慎ましい」の意味である。

イ 「つまし／あれ／ば」となり、「ば」は接続助詞で、ここでは仮定条件を表す。

ウ 「つまし／あれ／ば」となり、「あれ」は動詞で、ラ変の已然形である。

エ 「つま／し／あれ／ば」となり、「し」は副助詞で強調を表す。

オ 「つま／し／あれ／ば」となり、「ば」は格助詞で、「こ」では願望を表す。

カ 「つま／し／あれ／ば」となり、「つま」は連体詞で、「妻と着物の棲」の掛詞になっている。

③ 傍線部ウ「来」の読み方を、ひらがなで書きなさい。

④ この和歌の作者は、『伊勢物語』の主人公のモデルではないかとも言われている。この和歌の作者は誰か、選択肢から一つ選び、記号で答えよ。

ア 源融 イ 菅原道真 ウ 紀貫之 エ 藤原道長 オ 在原業平

⑤ この和歌が作られた時代とは異なる時代の作品を次の選択肢から一つ選び、記号で答えよ。

ア 後撰和歌集 イ とはずがたり ウ うつほ物語 エ 和漢朗詠集 オ 更級日記

問六 次の書き下し文の傍線部の読みをひらがなで記せ。

① 之を為すこと如何。 ② 苟も富貴となるも相忘ること無からん。

問七 次の作品と作者の組み合わせとして、それぞれ正しいものを一つ選び、記号で答えよ。

① ア 『東海道中膝栗毛』（十返舎一九） イ 『太平記』（鴨長明） ウ 『古事記伝』（向井去来）

エ 『好色一代男』（上田秋成）

② オ 『南総里見八犬伝』（式亭三馬） カ 『笈の小文』（松尾芭蕉） キ 『風姿花伝』（宗祇）

ク 『にぎりえ』（正岡子規）

③ ケ 『舞姫』（夏目漱石） コ 『春と修羅』（宮沢賢治） サ 『河童』（太宰治）

シ 『曾根崎心中』（井原西鶴）

〔二〕 左の新聞記事（2020年4月22日）は、新型コロナウイルスの感染が世界的に広がった状況下で、辻仁成（作家、パリ在住）が寄稿したものである。これを読んであとの問いに答えよ。

〔一〕 外出制限下の生活が4週間続いたフランスだが、4月13日、マクロン大統領は5月11日まで更に4週間の延長を国民に向けて宣告した。延長は想定内だったが、30分に及ぶ演説の後半、大統領が初めて言及した「ロックダウンの解除」はフランス国民を少なからず驚かせた。そこには、うっすらとだが光りが差していたし、新しい課題と問題も山積であった。

解除といっても5月11日から元通りの日常がいきなり人々に返還されるわけではない。もし本当に解除となれば、地域別（感染の状況別）、年齢別（高齢者は一番最後）で計画的、段階的なものになるはずだ。学校の再開（託児所から高等学校まで）がその先陣を切ることになりそうで、その場合、どうやって子どもたちの感染を守りながら授業をするかなど、このひと月間で解決しなければならぬ問題も少なくない。

ともかく、マクロン大統領は「⁽¹⁾収束の最初のシナリオ」を自国民に提示した。しかしそれは本当に可能だろうか？ ぬか喜びに終わらないか、という心配が頭を過ぎる。解除が行われても、ウイルスが消え去るわけではない。そもそもあとわずかひと月で、解除できるような状況まで持っていけるといふ保証もない。懐疑的な意見を持つ専門家も多い。もともと大統領は「それは国民の努力次第」と付け加える。ここからの1カ月、解除に向かうことで国民に希望のスケジュールを手渡し、同時にさらに強い試練を要求する。まず命を守るためにロックダウンを強行し、経済を復活させるために解除をちらつかせた。5月11日から、うまくいけば、フランス国民は日常生活と経済活動を取り戻すための長いリハビリ期に入る。

去年は黄色いベスト運動（ジレジョーヌ）が全土で吹き荒れ、その疲れが癒やされるまもなく年末から年始にかけて公共交通機関の歴史的ストライキ（1995年以来の）が行われ、国民はひと月以上徒歩で仕事場や学校へ移動する羽目となった。そこへ来ての新型コロナウイルスである。3月14日に全学校が休校となり、15日の0時からレストラン、カフェ、ブティックなど生活必需品以外を扱うすべての店舗が閉鎖、大統領が国民にむけテレビで演説を行った翌17日からロックダウンが始まった。

それからひと月が過ぎた今、生活への疲れや気の緩みがあちこちで社会的結束を揺るがし、封鎖政策は大きな山場にさしかかるうとしている。家庭内暴力が増え、精神のバランスを崩す人も出てきた。それでも市民は高い危機意識を持ち、フランス人の好きな「連帯」精神で、様々な不便を乗り越えてきた。特にこの戦争の最前線たる病院で働く人たちへの敬意と謝意が国民を結束させている。パリでは毎晩20時に人々が窓辺に立ち医療従事者へ向けて手を叩く。マスクや人工呼吸器の不足、予算不足を訴える医療従事者のマクロン政権への不満は大きい、国民は今のところ大統領のリーダーシップを見守っている。

□ 一時は、ジレジョーヌ運動などによって国論が二分したフランス。しかしマクロン大統領のスピーチ力も手伝い、不満はありつつも現状結束するしかないという国民の危機感にも助けられ、政権の求心力は回復しつつある。ロックダウンが始まった直後には、部分的失業制度を利用した雇用者の手取り額84%（最低賃金で働くものには100%）を国が補填、150ユーロの定額支援、法人税の納税延期、62・5億ユーロの企業支援、3千億ユーロにのぼる融資の保証、中小企業の家賃、電気ガス代の支払い延期などを政府は矢継ぎ早に決めた。さらに政権の若さと行動力に、国民はある種の期待を寄せるようになった。

今回の解除への言及と4週間のさらなる延長は、まさに「ア飴と鞭チ」の政策だが、日本人シングルファーザーのぼくにさえかすかな光りが届きつつある。フランス人の実に97%が、コロナ政策に従っているというアンケート結果も出ている。ふだんデモばかりやっている印象のフランス人からすると、驚くべき連帯の数字と言える。その一方で、大量備蓄マスクの紛失や、ロックダウン当初にマスク不要論を唱えた政権への厳しい批判も後を絶たず、そこはフランス人、協力はしても政権への意見や批判もしつかりやる。

しかし、イゴールがあると無いでは意味がまるで違う。今日まで、ぼくは何度か絶望を味わわれてきた。わずかひと月前、ぼくは行きつけのカフェで仲間たちとビールを飲みながらくだらない日常会話を楽しんでいた。ところが、その日々は不意に消えた。外出しようと思えば出来るし、いつもの町並みがそこにある。春の麗らかな光りが降り注ぎ、爽やかな風が吹き抜けているというのに、あつたはずの日常だけが消え去っていた。顔を出したくても、馴染みのカフェも、週に3度は顔を出すレストランもすべてが閉鎖され、そこにいた人懐っこいギャルソンも仲間たちの姿も消えた。一度恐怖を覚えた人たちが元通りの気持ちで、いつものカフェに集まれるものか、わからない。長いリハビリの時間が必要になる。

③ 実は、新型コロナウイルスの脅威は感染力の強さや致死率の高さだけではない。このウイルスには人間を分断させる恐ろしい副作用がある。人と人を引き離す、人と人の関係を断ち切るもう一つの破壊力も忘れてはならない。このウイルスの登場で、人々は社会的距離を強いられ、握手もハグも出来なくなった。全人類の半数にあたる人々が封鎖措置の中に置かれ、移動制限や人との接触を禁じられている。

致死率の高さも恐ろしいが、それよりもっと怖いのが、これまでの価値観や人間の結びつきを引き裂くこのウイルスの真の毒性だ。そのせいで日常は奪われ、人々は春だというのに友人や家族に会いに行けず、遊びに行くこと、集会に参加すること、いつものように働くことさえ出来なくなった。コンサート会場やサッカースタジアムで歓声を張り上げることや、集まって誕生日を祝うこと、葬儀に参列し、お別れの言葉を手向けることさえ出来なくなった。ありとあらゆる人間的な営み、社会関係、精神活動、日常の行動が制限されてしまったのだ。

人類は昔に石の道具を發明し人と人とが結びついて集落を作った。時間の概念や貨幣という価値尺度を生み出し、利益を求めて人が集まり都市や国家が誕生し、まさに人間が結びついてこのような世界が出来上がった。経済は人間と人間をつなぐことで回り、人々が行き交うことで拡大した。

ところが新型コロナウイルスの出現は僕たち人類の価値観を根本から変えてしまうことになる。世界中のあらゆる場所で人間が人間に近づけなくなり、ビジネスが滞るようになった。人と人との接触が出来なくなつて、その結果、経済が動かなくなり、失速し始めた。覇権を争う米中はお互いを非難し、イデオロギー、宗教、文化の場で人々がいがみ合い、他者を排斥し、感染者が差別され、世界中が鎖国のような状態になつて、不安と憎しみが助長され、僕らは誰もが距離をとるようになり、その結果、笑顔が遠ざかつた。全世界が力を結集させ、何らかの新しい方法で、再び手を取り合つて世界を創造していかねければならないというのに、新型コロナウイルスは想像以上にやっかいで、僕らはどんどん引き裂かれていく。その上、封じ込めるための治療薬もワクチンさえもない。人が離れていけば行くほど、人間は孤独になる。つまり、このウイルスは人類から人間の本質である愛を奪う悪魔と言ひ換へることもできる。

四 しかし、幸いなことに我が家に関していえば、崩壊ではなく、その逆の効果が生まれつつある。息子はフランスで生まれ、フランスの教育を受けてきた。ぼくがシングルファーザーになつた時、日本に戻るべきかどうかで逡巡した。息子は躊躇うこともなく、「パパ、ぼくにとつてはフランスは生まれ故郷だし、幼馴染みたちはみんなパリにいる、ここに残りたい」と言った。「セラ・ヴィ（それが人生だ）」とフランス人は言う。そして、これがぼくと息子の人生でもある。

ロックダウン直後、ぼくが一番心配をしたのは子どもが希望を放棄することであつた。しかし、それは杞憂に終わりそうだと外出宣言下のパリでぼくと息子は毎日一緒に料理をし、健康維持のためジョギングを欠かさない。今の子供たちはもともとネット文明の中で生まれ育つてゐる。ぼくの息子は、「僕らの時代の原つぽはネットの中にある」と言い切る。そのような世代の子たちは、学校が閉鎖されてもリモート教育下でスケジュールをこなし、サーバーの中で仲間たちと交友を深める。

ぼくは息子にこう言った。「この宇宙船は大きなミッションを持つて火星に向かつてゐるのだ」と。人類が火星に向かうというのは価値観の変更を意味する。息子は小さく頷いた。アパルトマンは宇宙船であつた。そして、毎日のジョギングを「宇宙遊泳」と呼び、買い物や「船外活動」とした。

家の中に次世代を見据えた新しい社会環境を築き始めた。説明が難しいが、子供はこうでなければならぬ、大人はこうだ、社会とはこうである、という既成概念を一度捨てる試み。今後、どのような価値観が定着するかわからないので、子供には柔軟な思考と可能性の余白を与えたい。

ひと月が過ぎ、宇宙船の中で様々な共同作業がはじめられた。日替わりシェフ制度が導入され、今日、息子はカンボジア料理のロクラクを作った。食器を洗うこと、掃除をすることなどの秩序が整ってきた。日常を奪われた僕らがロックダウン下で一番守らなければならぬことは「生活を失わない」ことだ。百年に一度のパンデミックと人類は遭遇してしまった。自分たちが生き残るために僕らは支え合い、強い連帯感を持ち、生き抜こうと約束しあった。

父子間の結束はこれまでになく強い。これを希望と呼んでもいいのじゃないか、とぼくは思う。そうだ、人類にはまだ希望がある。

(朝日新聞朝刊 2020年4月22日より。設問の都合で書式を一部改変し、段落番号を付けている。)

(注) ○辻仁成……1959年生まれ。「海峡の光」で芥川賞受賞。「白仏」でフランス・フェミナ賞外国小説賞受賞。歌手・映画監督など多彩な活動をしている。現在はパリ在住。

○黄色いベスト運動(ジレジョーヌ)……2018年11月にフランスの首都パリで始まった同国のマクロン政権に対する抗議運動。デモの参加者がフランス語で「ジレ・ジョーヌ」と呼ばれる黄色い安全ベストを着用していることから名付けられた。

問一 傍線部(1)「収束の最初のシナリオ」とあるが、どのような内容か、文章中の言葉を用いて四〇字以内で具体的に説明せよ。

問二 傍線部(2)「杞憂」とあるが、ここでは具体的にどういうことか、本文に即して説明せよ。

問三 傍線部ア「飴と鞭の政策」を別の表現で言い表している部分を第一段落から一〇〇字程度で抜き出し、最初と最後の五字を答えよ。

問四 傍線部イ「ゴールがあると無いでは意味がまるで違う」とあるが、具体的にどう違うのか、絶望・希望という言葉を用いて説明せよ。

問五 傍線部ウ「僕らの時代の原っぱはネットの中にある」とはどういうことか、原っぱの意味を明らかにした上で説明せよ。

問六 傍線部エ「この宇宙船は大きなミッションを持って火星に向かっていくのだ」について、次の問いに答えよ。

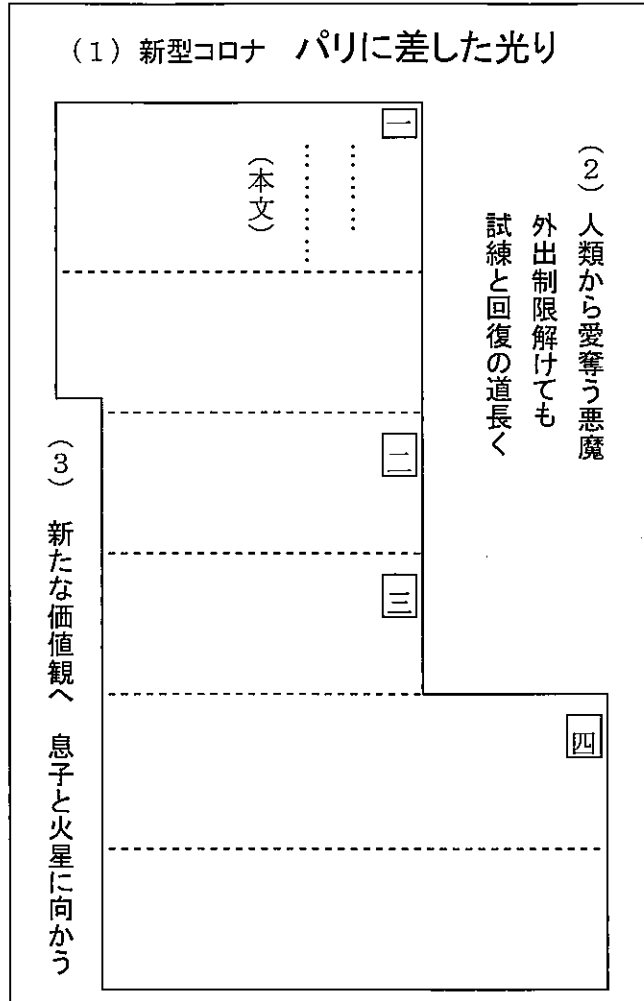
(1) 傍線部エはどういうことを表しているのか、文章中の言葉を用いながら具体的に言い換えよ。

(2) 傍線部エを宣言したあと、どのような変化が起こったか、簡潔に説明せよ。

問七 本文の段落構成とその効果について述べた次の文のうち、最も適切なものを選び、記号で答えよ。

- ① 抽象的な話から始めて、最後に具体的な話題になっていることで、読み手に親近感を与える効果がある。
- ② 国家レベルの対策と、家庭レベルの対応を並べて二項対立にしていることで、論点を明確にする効果がある。
- ③ 起承転結の構成を取って話題を転換することにより、意外性を持たせて、結論を明確にする効果がある。
- ④ 事態を俯瞰的に述べて課題と問題を示した後、視点を身近な生活に転じることで結論を印象深くする効果がある。

問八 この新聞記事には、次の(1)から(3)の三つの見出しがつけられている。(1)の見出しは本文の内容をどのような見出しで表しているか、(2)(3)の見出しとの違いに言及しながら説明せよ。なお、左のレイアウトは新聞紙面上のそれぞれの見出しの配置を示しており、参考にすること。



〔三〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

しもつきもおなじごとにて、二十日になりければ、今日見えたりし人、そのままに二十余日あとをたちたり。文のみぞ、ふたたびばかり見えける。かうのみ胸やすからねど、思ひ尽きにたれば、心よわきこちして、ともかくもおぼえて、「四日ばかりの物忌頻りつなむ。ただいま今日だにとぞ思ふ」など、あやしきまでこまかなり。はての月の十六日ばかりなり。

しばしありて、にはかにかい曇りて、雨になりぬ。たふるるかたならむかしと思ひ出でてながむるに、暮れゆく気色なり。いといたく降れば、障らむにもことわりなれば、昔はとばかりおぼゆるに、涙のうかびて、あはれにもののおぼゆれば、^①念じがたくて、人出だし立つ。

A 悲しくも思ひたゆるか石上さはらぬものとならひしものを

と書きて、いまぞ^②いくらむと思ふほどに、南面の、格子も上げぬ外に、人の気おぼゆ。人はえ知らず、われのみぞあやしとおぼゆるに、妻戸おし開けて、ふと^③はひ入りたり。いみじき雨のさかりなれば、音もえ聞こえぬ^cなりけり。いまぞ「御車とくさし入れよ」などののしるも聞こゆる。「年月の勘事なりとも、今日のまありには許されなむとぞ^④おぼゆる」など多く、「明日は、あなた塞がる。明後日よりは物忌なり、^dすべかめれば」などと言よし。^⑤やりつる人はちがひぬらむと思ふに、いと^⑦めやすし。夜のまに雨やみにためれば、「さらば暮に」などで帰りぬ。方塞がりたれば、むべもなく、待つに、見えずなりぬ。「昨夜は、人のものしたりしに、夜の更けにしかば、経など読ませてなむとまりにし。例の、いかに^⑧おぼしけむ」などあり。山ごもりの後は、「^⑨あまがへる」といふ名をつけられたりければ、かくものしけり。こなたさまならでは、方も、など、^⑩物しくて、

B おほばこの神のたすけやなかりけむ^⑪ 契りしことを思ひかへるは

とやうにて、例の、日過ぎて、つごもりになりたり。

忌の^{いみ}ところになむ、夜ごとに、と告ぐる人あれば、心やすからであり経るに、月日はさながら、^⑫鬼やらひ来ぬるとあれば、あさましあさましと思ひ果つるもいみじきに、人は、童、大人ともいはず、「儼やらふ儼やらふ」と騒ぎののしるを、われのみのどかにて見聞けば、事^{こと}しも、「こちよげならむところのかぎりせまほしげなるわざにぞ見えける。雪なむいみじう降ると言ふ^eなり。年の終はりには、なにごとにつけても、思ひ残さざりけむかし。

『蜻蛉日記』より。設問の都合で本文の一部を改変している。

(注) ○おなじごとにて……夫である藤原兼家が他の女のところへばかり行って、作者の元に滅多に訪れない状況が続いていた。

○今日見えたりし人……兼家。 ○はての月……十二月。 ○たふるる……閉口する。悩まされる。

○石上……「ふる」の枕詞。「降る」と「古」が掛かっている。 ○年月の勘事……長い間のおとがめ。「勘事」は失態

をした者を叱って遠ざけること。 ○言よし……口がうまい。 ○人のものしたりし……来客があった。

○山ごもり……作者は兼家の振る舞いに思い悩み、西山のある山寺に幼い我が子とともに籠もっていたことがある。

○おほばこの神のたすけ……おほばこの神のご加護。「おほばこ」は山野や道ばたに生える多年草。おほばこは蛙を蘇生させるという俗信があった。 ○忌のところになむ、夜ごとに、と……作者の忌み嫌っているところに毎晩通っています、

と。兼家はこの頃、「近江」という女性のところによく通っていた。 ○鬼やらひ……宮中の年中行事で、悪鬼を追い払

う儀式。追儺。

問一 本文は当時の暦で何月何日から何月何日までの記事か。解答欄に漢数字で記せ。

問二 二重傍線部 a ~ e の「なり」で文法的意味が異なるものとして最も適切なものを一つ選び、記号で答えよ。

問三 傍線部①「念じがたくて」、⑦「めやすし」、⑩「物しくて」の本文中における意味を答えよ。

問四 Aの歌は作者が兼家に対して詠んだ歌である。どういう状況を詠んだものかを、本文に即して、「昔」の状況と対比しながらわかりやすく説明せよ。

問五 傍線部②「いくらむ」、③「はひ入りたり」、④「おぼゆる」、⑧「おぼしけむ」の主語を以下から選び、それぞれ記号で答えよ。

ア 作者 イ 藤原兼家 ウ 使いの者

問六 傍線部⑤「すべかめれば」を、例にならって品詞分解し、文法的に説明せよ。

名詞	係助詞	カ行下二段・連用形	助動詞・完了・連用形	助動詞・過去・連体形
(例) 夜	／	ぞ	／	に
				ける

問七 傍線部⑥「やりつる人はちがいぬらむ」を現代語訳せよ。

問八 傍線部⑨「あまがへる」は作者が兼家から付けられたあだ名であり、掛詞になっている。例にならって、何と何が掛かっているのがわかるように記せ。

(例)「ふる」 降る と 古

問九 傍線部⑩「契りしことを思ひかへる」とは誰が、どうした出来事を指しているか。本文に即してわかりやすく説明せよ。

問十 傍線部⑪「鬼やらひ」に対する作者の評価を表している箇所を本文中から二十字以上二十五字以内で抜き出し、最初の四字で答えよ。

問十一 『蜻蛉日記』の作者を漢字で記せ。

〔四〕 次の文章を読んで、あとの問いに答えよ。

春秋時代の斉国の宰相であった晏嬰（晏子）は、晋国に赴く途中に、ぼろぼろの服を着て道の傍らで休んでいる人を発見した。その様子が立派な人物に見えたので、付き人に尋ねさせたところ、名を越石父といい、飢えと寒さをしのぐために奴隷となって三年経つという。そこで晏子は馬車の馬の頭と引き換えに越石父の身柄を引き受け、車に乗せて一緒に帰ることとした。以下は、帰着したあとの場面である。

至^リ舍^ニ、不^レ辭^{（a）}而入^リ、越石父怒^リ而請^レ絶^{（b）}、晏子使人^メ応^{（c）}之^ニ曰^ク、「（あ）吾未嘗得^レ交^{（d）}夫子也、子為^{（e）}僕^{（f）}三年、吾（イ）酒^{（g）}今日^{（h）}睹^{（i）}而贖^{（j）}之、吾于^{（k）}子尚^{（l）}未^{（m）}可^{（n）}乎。①子何^{（o）}絶^{（p）}我^{（q）}之暴^{（r）}也。」越石父（ロ）对^{（s）}之^{（t）}曰^ク、「臣聞^{（u）}之^{（v）}、士者^{（w）}耻^{（x）}乎不知^{（y）}己^{（z）}、而申^{（aa）}乎知^{（ab）}己^{（ac）}、故君子不^{（ad）}以^{（ae）}功^{（af）}轻^{（ag）}人之身^{（ah）}、不^{（ai）}為^{（aj）}彼^{（ak）}功^{（al）}耻^{（am）}身^{（an）}之理^{（ao）}。吾三年為^{（ap）}人^{（aq）}臣^{（ar）}僕^{（as）}、而（イ）莫^{（at）}吾知^{（au）}也。今子贖^{（av）}我^{（aw）}、吾以^{（ax）}子為^{（ay）}知^{（az）}我^{（ba）}矣。」

（ハ）嚮^{（bb）}者^{（bc）}子乘^{（bd）}、不^{（be）}我^{（bf）}辭^{（bg）}也、吾以^{（bh）}子為^{（bi）}忘^{（bj）}。今又不^{（bk）}辭^{（bl）}而入^{（bm）}、是（シ）与^{（bn）}臣^{（bo）}我^{（bp）}者同^{（bq）}矣。我（ニ）猶^{（br）}且^{（bs）}為^{（bt）}臣^{（bu）}、請^{（bv）}鬻^{（bw）}于^{（bx）}世^{（by）}。」晏子出^{（bz）}、見^{（ca）}之^{（cb）}曰^ク、「嚮^{（cc）}者^{（cd）}見^{（ce）}客^{（cf）}之容^{（cg）}、而今也見^{（ch）}客^{（ci）}之意^{（cj）}。嬰聞^{（ck）}之^{（cl）}、省^{（cm）}行^{（cn）}者不^{（co）}引^{（cp）}其過^{（cq）}、察^{（cr）}实^{（cs）}者不^{（ct）}譏^{（cu）}其（d）辭^{（cv）}、嬰可^{（cw）}以^{（cx）}辭^{（cy）}而無^{（ca）}棄^{（cb）}乎。嬰誠^{（cc）}革^{（cd）}之^{（ce）}。」

洒令糞灑改席、尊醮而礼之。越石父曰、「吾聞之、至恭不修途、尊礼不受擯。夫子
 礼之、^② 僕不敢当也。」晏子遂以為上客。君子曰、「俗人之有功則德、德則驕、
 晏子有^レ功、免^レ人于厄、而反誦^レ下之、^③ 其去俗亦遠矣。此全功之道也。」

『晏子春秋』内篇雜上より。設問の都合により、返り点・送り仮名を省略している部分がある。

(注)

- 僕……………一種の奴隸。
- 贖……………金品により奴隸の身柄を引き受けること。
- 誦……………屈從する。
- 乘……………馬車に乗る。
- 鬻……………売る。
- 引……………引き延ばす。
- 糞灑……………清掃する。
- 改席……………客人に敬意をはらつて席を換える。
- 尊醮……………酒を酌む。
- 修途……………道を綺麗にする。あるいは、方法を追究する。
- 擯……………僨(賓客の案内役)に通じ、賓客をもてなすこと。
- 德……………立派であると考ええる。

問一 傍線部(イ)〜(三)の読み方を、送り仮名も含めひらがなで書け(現代仮名遣いでもよい)。

問一 傍線部(あ)(い)(う)の書き下し文を書け(現代仮名遣いでもよい)。

問三 傍線部①と晏子が述べたのは、越石父のどのような態度をどのように考えたためか、説明せよ。

問四 傍線部(a)(d)の「辞」のうち、ひとつ意味・用法が異なるものがある。それはどれか、記号を答えよ。また、他の三つの「辞」は同じ意味であるが、その意味を書け。

問五 傍線部②とあるが、どのような考えによって「僕」(ここでは越石父の自称) は「不敢当」と言っているのか、説明せよ。

問六 傍線部③のように晏子が賞賛された理由を説明せよ。

問七 本文の内容に合致しないものを次から一つ選べ。

- ア 晏子は越石父が怒ったことに対し、最初自分は何も悪いことはしていないと反論したが、越石父の話を聞いて納得した。
- イ 越石父は、晏子が自分の功績を認めないなら、わざわざ来た意味がないと考え、再び奴隸として売られることを選ぼうとした。
- ウ 越石父の考えでは、士は己を理解しない者の前では屈従するが、己を理解する者の前では自由自在にふるまう。
- エ 晏子は越石父の話を聞いて、その意図を理解し、結局は越石父を礼遇することとして、貴い客人として迎え入れた。